

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000023		
法人名	社会福祉法人 慈友会		
事業所名	グループホーム慈愛		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字天月1345番地		
自己評価作成日	平成24年10月23日	評価結果市町村受理日	平成24年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成24年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様・家族様・地域の方々と共に協力体制を強化し、愛されるホームを目指し頑張ってきました。地域の方がホームの為に交流行事を行い、地域との関係も更に構築されてきています。また、利用者様を理解し、日々の生活を楽しく過ごしていただく為に、ケアマネジメント方式を取り入れ、利用者様の自立支援へと繋げ、スタッフの資質の向上も実績されています。「今を大切に！」を、常に心に刻み、いつも笑顔の絶えないホーム、家族様との信頼関係も更に深まり、「ここで生活出来て有り難い、幸せ・・」「ここで生活してもらえれば、私たちは安心・・」の言葉が今まで以上に聞ける事を励みに、更に頑張りたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間地にあるこのホームでは、入居者の“今”を視点にした取り組みや地域の中での生活拡充により明るく家庭的なホームが形成されている。理念である「文化活動・健康づくり・社会参加活動」の実践は、入居者のみならず地域高齢者の生活の活性化となっており、地域に支え・支えられる関係性が今年には更に密接な関係となる等地域の一員として確固たる基盤を築いている。「ここに来たら安心する」との地域住民の言葉や、地域住民からの提供される生け花や定期的な水彩画の提供にも愛されたホームであることが窺われる。管理者を中心として全職員の意思疎通も良く、「毎日を楽しく」を合言葉に明るくケアに当たり、職員の細やかな気配りや傾聴・寄り添いの姿に優しい介護であることが窺われ、家族との信頼関係となって表れている。地域のニーズに対応した運営や地域に根ざした精力的な事業展開により2ユニット目が建設中であり、今後も地域福祉向上への寄与に期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務室内、ホール内に掲示し、理念に即した行事計画を立て、利用者の日常生活の活性化に繋げている。	グループリビング・共生の生活づくりを基本として、「文化活動・健康づくり活動・社会活動」をにより充実した幸せな高齢期を支援することを掲げている。毎朝のミーティング時、理念に則り全職員の一言スピーチから業務をスタートさせている。毎月の行事予定の中や個々のプランの中に理念を具体的に反映させている。また、法人の経営方針・基本方針・介護理念等職員のケア規範として浸透していることは、入居者の“今”を視点にした取り組みや地域の中での生活基盤の拡充や、明るく家庭的なホーム形成に表出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域福祉活動や地域活動へ参加する事により、近隣住民との相互交流を深めている。更に、近隣住民がホームの為に交流行事を行い、地域との関係が構築されている。	地域密着型事業所として機能を確実に果たし、地域社会の中での暮らしの継続を支援するという醸成されたホームである。入居者が参加できる種目を考えて招待くださる地区のレクリエーション大会、毎月の「たっしやか会」、地域の七夕飾りや夏まつり等近隣住民と一体となって取り組んでいる。また、そうめん流し昼食会等ホーム行事にも多くの近隣住民が訪問されている。ホームも自治会・テレビ組合・水道組合等に参加し、一日一汗活動として公民館の掃除や道路清掃参加等地域に根ずき、可愛がって下さることに恩返しをしたいと努力している。	最近では在宅でケアをされている地域住民の相談や、民生委員の訪問時に介護保険や認知症状等の説明が行われている。今後も職員の専門性を生かした認知症ケア啓発に大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流を目的としたホーム行事や地域の行事に参加する事を通して、認知症の人を理解して頂く機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの提供報告やホームの運営に関する相談等を行っている。ホーム行事(敬老会やそうめん流し等)や防災協力体制、地域行事の協力が得られた。	毎回2ヶ月間の行事報告・計画等を説明し、夜間想定 of 防災訓練に地域住民が参加するためには車いすの操作方法や入居者個々のADLの把握が不可欠ではないか等上っており、クリスマス会の中(老人会の方々が訪問される予定)に勉強会を組み入れる意向である。この会議を通じケアサービスへの反映ばかりでなく、行政と委員との橋渡しとしての役目も担い、雑談の中からも提案等を見出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やその都度、グループホームからの相談事や地域福祉に関して情報交換を行っている。	運営推進会議に介護保険課、包括支援センターから毎回参加があり、ホームの現状を発信している。また、地域外からの利用相談等に行政に確認したり、行政からもケアについての問い合わせ等もあり、相互の関係が構築している。また、包括主催の研修に参加し、ケア向上に反映させている。“五松園だより”を入居者が散歩がてらに手渡しに回れる距離にあることも利点である。(役場支所、郵便局、保育園、老人会会長宅等も)	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵を開放している。研修会、勉強会にも積極的に参加、身体拘束についての理解、身体拘束廃止に向けて取り組んでいる。	“身体拘束ゼロ宣言”を掲げたホームでは、24年度の重点目標の一つとして身体拘束廃止検討委員会での研修や事例検討等を行っている。職員は言葉や無視等も拘束と捉え、どんなに多忙であっても必ず顔を見て返事することを共通認識としている。外に出たいとの思いを把握し、支えられる距離で見守る等一人ひとりの傾向等を把握し、拘束、封じ込め等のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自主的に勉強会に参加し、理解を深め、虐待防止徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業の利用者様は入居されていないが、勉強会に参加し、更にホーム内での自主的な勉強会を行い、知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用料金、入退居の条件等十分な説明を行い、ご家族の相談を聴き、契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは、日常のコミュニケーションの中から意見や要望を引き出し、家族様からは、面会時や家族会(年2回)の時に聞きとり、それらを運営に反映させている。	入居者と職員との良好な関係が築かれ、日々の関わりの中で要望等を引き出している。家族には意見箱、運営推進会議、年2回開催する家族会を問題提起の場として捉えており、ケアや防災訓練時の誘導先等の質問が出されている。また、家族会ではお小遣い預かり金・ケース記録を開示、確認により不安を取り除く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の職員とのコミュニケーションにより、随時職員の意見や要望を聞き、日常業務の流れを見直すなど、職員の提案を反映させている。また、月2回の勉強会を開く機会を設けている。	職員会議やケアマネジメント勉強会時行事・業務等を全員で話し合い、ケアサービスに反映させている。管理者を中心として職員同士の意思疎通もよく日常業務での改善点はその都度検討している。また、法人として特別休暇のアンケートを実施し、勤務体制も全員で検討し働きやすい環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて勤務時間の配慮を行い、働き易くされている。行事時は人員を増やす等、職員の負担にならない配慮もされ、勤務内容や休憩時間等も職員間で幾度も検討した結果、働き易い職場環境となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県内、県外を問わず、研修会には積極的に参加している。法人内でも月1回の勉強会が行なわれているので、夜勤者を除いた職員が積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、研修の中での交流や相互訪問の活動を行い、互いに良いところを取り入れ、サービスの質を向上し合っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、本人様の希望、要望をうかがい、納得の上で、入居して頂いている。良い関係作りをする為に、家族様へ生活歴、趣味等の記入をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、家族様の希望、要望をうかがっている。担当ケアマネジャーからの情報も聴き、ホームに対する不安が排除出来るような関係作りから始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの機能を説明し、家族様、本人様の希望をうかがったり、担当ケアマネジャー等の助言をいただいたりして、サービスの対応策を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意思を尊重し、やりたい事、出来る事を見守り、出来ない事が出来るようになる為に、一緒に行っている。積極的に作業されている姿が多々見受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との連絡を密に取り、生活状況、心身の様子等を家族様に伝えている。行事への参加を呼び掛け、本人様、家族様との時間が保てる様、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域等の行事には積極的に参加している。会話の中に出てきた場所や人名を見極め、個別ケアしている。	日常の会話から会いたい人等を推察し、家族に相談して故郷を訪問したり、田植え時期になると家族を心配される様子に田んぼを見回る等大切にされてきた関係の継続に努めている。「昔から温泉を利用していた」との言葉から温泉に出かけたり、地域の祭りや行事、この地での伝承や慣習の支援の他、家族との関係にも注視し、今年もとっておきの一枚の写真による手作り年賀状の準備が進んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、職員が仲介役になり、共同生活が楽しくなるように支援している。ホールで過ごす時間が長い為、利用者様同士の関わりが多く持て、良い関係が保たれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状態を把握し、必要に応じて本人様、家族様の相談に応じ、行事等の参加も呼び掛けている。退所後も家族様が立ち寄る等、断ち切れない関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様からの会話から希望、要望が出た場合は実践しているが、困難な場合は全職員で検討したり、家族へ相談し、その都度対応している。	高齢化・重度化傾向にある中、職員は一人ひとりに寄り添い、その時々状況や背景を探り、会話の中で思いを引き出したり、サインを見極め、時には家族に相談し協力を得ながら思いを実現させている。発語困難・難聴・弱視と様々な状況に、非言語的コミュニケーションや選択肢を投げかけ、自己決定の場を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族様、外部から面会に来られた時等、会話の中での情報を収集し、日頃のサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時、個々の現状、心身の様子等話し合い、連絡ノートも活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の意見を聞き、状態変化に伴い、モニタリングを行いながら介護計画作成者が作成している。またケアマネジメントセンター方式を取り入れ、日々の個別記録を活かし、プランに反映させている。	家族からの個別特性シートを生かし、1日の生活記録を数値化し、毎月個々のケアを総点検している。また、毎月ケアマネジメントの勉強として全員でのモニタリング、短期目標に合わせたモニタリングを行う等職員の観察力や気づきを生かし、現状に即したプランを作成している。援助方針としてレクリエーション・地域との交流・楽しみ・生きがいによる意欲的な生活支援等理念が反映された具体的かつ詳細なサービス内容である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。見直しについては、日々の状態を申し送り、担当者会議を開き、プランの中に反映させる事に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方が急きょ、通院介助が出来なくなった場合などは、希望に応じて柔軟に対応している。外泊、外出の際には、本人様、家族様が満足出来る様に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域の消防団、駐在所との情報交換が出来、支援体制の構築が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態変化時は、かかりつけ医へ連絡、状態報告し、受診している。場合によってはかかりつけ医との情報交換も行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医を支援する事を入居時に説明しているが、全員が母体医療機関をかかりつけ医としている。定期受診の支援や状態変化時連絡を取り合い、気軽にホームに立ち寄られる院長の存在は入居者や家族及び職員にとって心強く、職員も日々バイタルチェックや観察により異常の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に状態を報告し、助言、指示を仰ぎ、適切な受診や看護を受けられるようにしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に足を運び、病院や家族様に、回復状況の確認や情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になってくると困難である為、現状では出来ない事を入居前に説明を行っている。重度化しつつある場合は早い段階で家族様に状態、状況を説明し、方針を理解していただいている。	入居時に医療中心となった場合にはホームでの対応が難しい事を説明している。特養ホームに入所申し込みをされる等住み替えの準備を行っている。重度化が見込まれる時は早い段階で主治医を交えた話し合いを持ち、ホームの方針を共有した上で、出来る限りホームでの生活が続けられるように、職員も共通認識を持って取り組んでおり、法人での看取り研修に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や応急処置のマニュアルを作成し、勉強している。また、研修などにも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、年2回は防災訓練を行っている。訓練時には近隣の方にも案内を出し、協力を求め、地域放送もしていただいている。地域の方と密に連携をとり、防災訓練を行っている。	今年には夜間の想定した防災訓練を駐在所や地域住民と一体となって開催している。地域からの積極的な協力支援の様子は運営推進会議議事録から確認できた。今年の水害時の被害を踏まえ、法人で勉強会を実施し、自然災害に対する訓練を取り入れる予定もある。	危機管理意識の高いホームでは、地域との連携も出来てきている。車椅子使用方法等も地域住民に指導されており、今後も避難場所までの移動等シュミレーションも取り入れ、有事に備えていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を念頭に置き、人格を把握、尊重し、言葉かけやプライバシー保護には、十分に気をつけ個別ケアに努めている。	法令遵守や接遇マナーの研修に参加し、一人ひとりに合わせた話しかけや誇りを損ねない対応に努めている。認知症であっても大先輩であることを忘れず、馴れ合いの言葉や方言の中にも敬語で話すよう管理者は指導している。トイレ誘導時の声かけや寄り添う姿勢に、介護理念の実践であることが確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の職員とのコミュニケーションにより、本人の思いや希望を感じ取れるように、また、本人様が意思表示し易い様な雰囲気作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の利用者様の状態に応じて、動いているが、行事の日は集団での歩調、行事の時間に合わせて行動して頂く事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るよう、支援している。好みの衣装を把握し、一緒に準備したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに好みの物や旬の物を取り入れたり、皆で一緒に作れる物(餃子、お好み焼き等)を提供している。利用者様が菜園で収穫した野菜を使い、食事を美味しく、また楽しむ為に屋外での食事も取り入れている。	入居者に食べたい物を聞き取り、一緒にその日の献立を考えている。料理に関する事を入居者も楽しみにされ、買い物や準備等一緒に行い、畑で収穫した野菜が食卓に上る喜びも味わっている。出来る限りそのままの形態で提供し、その場で食べれる大きさに切り分け、職員も見守りや声かけし、「うまかった～」と語る入居者の笑顔で和やかな食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック表を作成、記入し、把握している。状態に応じて食事量や食事形態を工夫し、提供している。水分が少ない方には、夜間を通して、こまめな水分補給を行い、水分確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを、毎食後行ない、毎日夕食後に義歯の消毒を行っている。必要に応じ、歯科受診を受けられるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンが把握出来たことでオムツ使用から、普通のパンツへと移行出来た利用者様もいる。排泄容器も手作りの収納箱を作製し、役立てている。	トイレ入り口の排泄チェック表によりパターンを把握し、表情や時間等を見計らいトイレに誘導している。夜間もトイレ誘導し、皮膚剥離予防対策の布下着使用やリハビリパンツから布下着への変更等職員のケア力を活かし自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しつつ、飲食物の工夫や水分を多めに摂っていただいたりしている。入浴を勧め、腹部マッサージをしたり、運動の働きかけも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定はあるが、希望に沿いながら自由入浴をしている。入浴時はゆったりと会話や歌を楽しんだり、近くの温泉を利用した入浴支援や脱衣所の収納方法も改善され、気持ち良い入浴支援に繋げている。	入居者個々の希望の希望を優先し、一日を通してゆっくりとした入浴を支援している。浴拒否の方には、時間をみながらの声かけや嫌がられる場合には強制せず清拭へ変更もある。しょうぶやゆず湯を取り入れたり、今年は温泉の家族湯等に出かけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況に応じ、日中の休息を取り入れながら、昼夜逆転につながらないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容を確認している。処方の変更があった場合には、連絡ノートを利用し伝えている。変更後の状態観察も行っており、次回受診時、報告が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や特技を活かし、潜在的、残存的能力を引き出し、楽しみや生きがいを持つよう支援している。菜園での作業や同法人の「養護老人ホーム」との交流、外出等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候を考慮し、散歩や買い物など外出支援を行っている。個別的に日頃行けない様なところは、家族様に伝え、外出出来る様に、協力体制に努めている。	日常的な近隣周辺の散歩や時には温泉センターの休憩所でお弁当を広げたりと立地条件を活かし、車で出かけた際には自宅近くまでのドライブや海水浴場でのすいか割り、グラウンドゴルフ大会参加等地域行事への多くの外出の機会を作っている。希望による買い物や家族の協力により自宅への帰宅等個別外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様所持とホーム管理がある。所持金を持っておられる利用者様は買い物同時、支払いが出来るように支援し、ホーム管理の利用者様は職員が本人様に確認し、対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の機会が多く、電話の申し出はないが、あった場合は職員が対応し、ゆっくり会話が出来る様配慮している。各自家族様宛の暑中見舞いや年賀状作成で、はがきのやり取りが出来、家族様からも喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホーム内に植物や手作りの飾り物、地域の方により、季節を感じる定期的な水彩画を置いて頂いたり、落ち着いた空間作りに努めている。利用者様と手作りの貼り絵を作成し、ホーム内に掲示する事で季節感を採り入れている。	明るく広々とゆっくりとしたミニパブリックスペースを中心に入居者が集うスペースをテレビを中心に配置し、季節毎の貼り絵や入居者の作品(短歌や書等)を掲示し、玄関先には地域住民からの生け花や月毎に提供される水彩画が季節を彩っている。掃除も行き届き、温湿度管理も徹底している。今年度は浴室の脱衣所に物品整理用のケースの設置等環境整備に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が一人ひとり、思い思いの空間で過ごしておられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方が持ちこみ、室内の配置や使い慣れた家具を持って来ていただいている。	持ち込みの制限は無く、家で使用されていた馴染みのものの必要性を説明しており、タンスや籐ソファ・家族写真・趣味の短歌集等が家族の協力により持ち込まれ、壁面には手作りカレンダーを飾っている。ベッド上の布団は押入れに片付けることにより昼夜のメリハリとし、清潔感の有る居室である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を見極め、トイレや居室に名札を提げたり、身近な所に生活用品を置き、整理整頓が出来るよう、その方の能力が活かせるように支援している。		